



Narashino International Association

SQUARE ソフトウェア

季刊会報

第 88 号

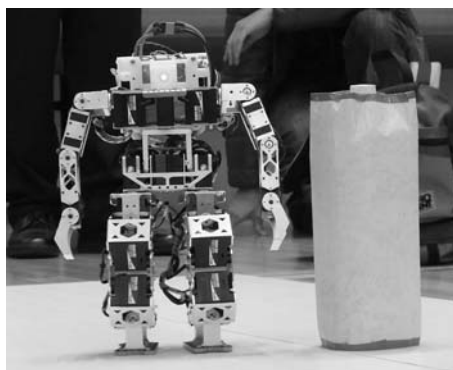
2009年12月1日

Narashino International Association (NIA)

世界の最新ロボットはここまで進化している。

目の前で観て、操作したロボット体験

文化委員会 日野 陽子



本年度の文化講演会は、10月31日（土）千葉工業大学未来ロボット技術研究センター室長 先川原正浩先生にお願いし、同大学津田沼キャンパス新1号棟3階大教室をお借りして、開催しました。

先生は、同大学で室長として活躍されるほか、テレビや各種イベントに出演したり、新聞や雑誌にも掲載され、さらにロボット関連の企画にも関わっておられます。一方、同大学の学生達が製作した人間型ロボットは「ロボカップジャパン2009（ヒューマノイド・リーグ）」で優勝し、その技術的レベルの高さを世間に示しました。

い年齢の方々が多数集まりました。ロボットはそれだけ誰からも愛され、興味をもたれている証しだと思います。先生は、次世代のロボットが工場の製造現場だけでなく、医療分野、介護分野、農業分野などいろいろなところでも使用されている具体例を映像を使って講義されました。そして、同大学の2人の学生にも来てもらい、用意した人間型ロボットを動かして、使いやすくなった現在のロボットを子供たちにも操作させ、説明をしてくれました。皆さんは、時の経つのを忘れたかのように、熱心に聴き入っていました。



先川原先生と2人の学生



子供たちと親しく語られる先川原先生

今回の講演会には、子供たちから高齢者まで幅広

習志野市国際交流協会は、千葉工業大学のロボット研究に関する最新情報を、このような機会を通して皆様にお伝えするだけでなく、今後習志野市を訪れる外国の方々にも紹介し、文化交流の推進をしていきたいと考えています。

周到に準備された先生のご努力に敬意を評するとともに、心よりお礼を申し上げます。

講演終了後、希望者は、当市で最高層のビル新1号棟20階展望室から、眼下の習志野市・幕張新都心・東京湾等の一大パノラマを眺望し、満足して帰られました。

「世界の料理教室」ブラジルの家庭料理

文化委員会 日野陽子

毎回ご好評いただいている「世界の料理教室」、今回は2016年のオリンピック開催国に決まったブラジルの家庭料理です。講師に横田エリアナさん、栄治さんご夫妻をお招きして、「ビーフロール」「チキングラタン」など五品の料理を教えてくださいました。

エリアナさんは、1991年から5年半静岡県に滞在され、その後ブラジルに帰国されました。今は習志野市に住んでおられ、昨年夏より日本語講師の原田益次先生から日本語を学んでいらっしゃいます。そして「日本、大好き!」という明るい方です。



料理指導をするエリアナさんご夫妻 (写真中央)



料理の色を表現できないのが残念です。

今回はメニューが五品と多いため、いつもと違ってテーブル毎に異なる料理を作り、できあがった料理をそれぞれ20等分して、みんなでいただきました。どれも好評でしたが、参加者からは「特にビーフロールがすごくおいしい」と喜ばれました。下味をつけた牛肉で、スティック状に切ったピーマン・人参・ベーコンを巻き、それをフライパンで炒め、トマトソースで煮た料理でした。

文章スペースの関係で、レシピを掲載できませんが、ご希望の方はNIA事務局までお問い合わせください。

一生懸命教えて下さった横田さんご夫妻に心よりお礼を申し上げます。

英国 U3A の代表者、習志野市を訪問

通訳・ホームステイ委員会 山口大二郎

10月16日、英国のU3A (the University of the third age) 代表者9名が習志野市を訪問されました。U3Aは退職された方々を中心となり、各自が体験した知識や特技を教え・学び合う中で、楽しさや生き甲斐を見出す市民が参加する自主的な組織です。全国に組織化された生涯学習やスポーツ・芸術・趣味などの同好会、また旅行やホームパーティーなどで親睦を深めるなど、活動内容は多岐にわたっています。

U3Aとの関係は、今年の5月、当市の武田直子さん、東海林紀子さんを含む日本人7名がロンドン近郊の3都市でホームステイし、そこで出会ったU3Aのメンバーに日本文化を紹介するのが始まりです。今回は、U3Aのメンバーが当市に5日間ホームステイし、市民の方々と有意義な交流を図りました。

初日は、荒木市長を表敬訪問し、谷津干潟を見学。翌日は、午前中、英語学習会「ビギン」の方たちと交流。午後、消防会館で行われた交流会には市民の

方たち約80名が参加。最初にNIA山田会長と市長夫人の英語による歓迎の挨拶があり、U3A代表から活動内容が説明されました。次に6グループに別れ、英国飾り文字の書き方、パッチワークなどについて日・英の国際交流が弾み、終始なごやかな雰囲気の中でその日の幕を閉じました。残された日程で阿武松部屋の見学や江戸博物館を始め、東京の主な観光スポットをボランティアの皆さんと一緒に案内しました。最後の夜、武田さん宅のホームパーティーでは、手作りの美味しい料理を味わい、ワインを酌み交し、お互いの文化や風習の違いなどの話題で大いに盛り上がり、U3Aが志向している第三の人生の一部をエンジョイすることができました。



荒木市長を表敬訪問したU3Aメンバーとボランティアの方

中国語講座について

語学研修委員会 西 浦 利 清

今年度も中国語講座が開かれています。講座は、春・秋・冬各学期 10 回ずつ、計 30 回。毎週木曜の午前 10 時半から 12 時まで行っています。10 月 15 日現在、秋学期の 7 回目の講座が行われています。講師は中国語の教育に経験豊かな中橋先生が担当し、14 名の生徒さんが、楽しく中国語を学んでいます。

習志野市国際交流協会では、来年 2 月 13 日に「第 2 回ふれあい祭」を計画しています。これは当協会が主催する多文化共生をテーマとしたイベントです。現在中国語を学んでいる皆さんにもこのイベントの中で、唄を中国語で歌っていただくことをお願いしています。中橋先生は、「外国語を学ぶとき、その国の言葉で唄を歌うことは外国語の習得にたいへん役に立つ」とおっしゃっています。皆さんの努力された学習成果の発表を楽しみにしています。

なお当協会では、来年度も 5 月頃から中国語、英語、韓国語の講座を開く予定です。ご興味のある方は、来年の 3 月か 4 月頃当協会へお問い合わせください。

中国語講座講師になって

中国語講座講師 中 橋 一 榮 (馮慧)



後列左から 4 人目が中橋先生

私は中国語を 5 年間教えています。授業の内容は教科書を中心にして、また、日常会話の話し言葉を教えています。時々、漢方や食生活、健康など生活に関連した常識などを生徒さんたちに紹介しています。学習した言葉を身につけてもらえるよう、中国人の生活を紹介する中で、中国語の意味を理解してもらっています。このような学習方法を生徒さんは楽しんでいます。授業中、彼らはふだんのおとなし

い性格とは一変し、様々な質問を投げかけてきます。私がそれらの質問に答えると、彼らはまたすぐに活発な討論を展開します。

初めは、皆さんゼロからの出発でしたが、何年か勉強を経た今では、各自が中国語で日記や随筆等の文章を書けるようになりました。中国へ旅行に行った人は、現地の人と中国語で直接交流ができて、便利で楽しく過ごせたようです。私は皆さんのこのような成果を見て、とても嬉しく思います。

そして、今も皆さんは更なる学習意欲を示しています。私は、これからも更に誠意をもって中国語を教える努力を惜しまない積りです。

中国語講座を受講して

受講生 山 田 哲 夫



初めて中国語(普通話)学習をしたのは 40 年ほど前の文化大革命の真最中の頃でした。今の教科書では「大家(皆さん)」と言うところですが「同志們」だった。当時は受講生も 3~4 人で実にマイナーなコースでした。

そんなわけで、卒業後、最近まで中国語とは無縁の生活でした。ある時、日本語学習部会で中国人に教えているうち「またやってみよう」とふと思立ち、現在の受講に至りました。そしてこの初心者クラスで初めて、北京語が母語の先生に接し、あやふやだった母音の発音と口の形の関係を目の当たりにすることができ、内心にんまりしております。この先 NIA 主催の上級クラスができれば、私はそこに進みたいと思っています。



ユニセフ訪問

青少年部会員 細根翔平、陳 義強

9月16日、私たちは青少年部会を代表して日本ユニセフ協会（品川）を訪問しました。今回は事務局に設置している募金箱のお金と「ふれあい祭」のバザー売上金を寄付する目的で行って来ました。



本館内の資料を見学し、ボランティアスタッフの方の説明を通して、発展途上国の現実についても理解を深めることができました。

皆さんは「ユニセフ」についてどれくらい知っていますか。聞いたことはあるけど、どんなものかよく知らない、という人が多いのではないのでしょうか。UNICEF（United Nations International Children's Emergency Fund）は日本語での正式名称を国連国際児童緊急基金と言います。主に「子供の権利条約」というものを実現するために活動している組織です。もっと具体的に言うと、子供の学習支援や医療器具の援助、災害時の子供に対する支援などを行っています。



真中が陳さん、右端が細根さん

見学してきた中でも最も印象的だったのが写真の水瓶です。この瓶は中に水を入れると数十キロもの

重さになります。日本では水道の蛇口をひねれば簡単に水が出てきますが、いくつかの途上国では女性や子供が水を得るために、この瓶をもって何キロもの距離を歩かなければなりません。実際に持ってみましたがかなり重く、これを女性や子供たちが長時間かけて運ぶことを考えると、ものすごい負担に思えます。ユニセフはこのような地域に水道をひく活動も行っているそうです。



私たちには集められた募金が実際にどのように使われているかを直接見ることはできません。自分たちの寄付したお金がどのように使われているかを知ることが大事です。もちろんユニセフに限ってのことではありませんが、皆さんも自分たちが行っている募金がいったいどのように使われているのかを調べてみてはいかがでしょうか。日本ユニセフ協会は、随時ボランティアの方が説明をしてくださるので、ぜひ一度品川まで足を運んでみてください。きっとなにか新しい発見があるはずですよ。

仲間にはいませんか

青少年部会長 高橋 順子

青少年部会では新しいメンバーを募集しています。「国際交流活動に興味はあるけれど、どうしていいかわからない」、「自分でも交流会等を企画してみたい」、「日本人、外国人にかかわらず友達のをを広げたい」、そういった若い皆さんの参加をお待ちしています。小学生から大学生は勿論、^{もちろん}社会人の方も大歓迎です。

「仲間にはいってみたいかな?」という方は事務局までお問い合わせください。

あるいは、Eメールで lastshot_08@yahoo.co.jp までご連絡いただいても対応します。

習志野市国際交流協会事務局の紹介

事務局はどこに

事務局は、3階が京成津田沼駅へ通じるサンロード津田沼ビルの4階にあります。日曜・祝祭日を除き、毎日午前9時から午後5時15分まで業務をしています。皆さん、どうぞお気軽にお越し下さい。



事務局スタッフの自己紹介

☆ 事務局長 岡本 孝夫
昨年4月事務局長に就任し、今年の5月理事になりました。趣味はツーリングです。市民の国際化を目指し、日々活動されている会員の皆さま方と一緒に頑張っています。

☆ 事務局員 中野 雅子
NIAの活動を通して、外国の方々や、豊富な知識をお持ちの会員の皆さまと交流させていただき、大変ありがたく思っています。皆さまのお役に立てますように努力いたします。

齊藤 智美
日々、ボランティアの皆さまの多大なご協力を得て、業務に邁進まいしんしています。至らない点が多々ありますが、よろしく願い申し上げます。

辻 智子
主に人事と経理を担当しています。趣味は旅行と音楽鑑賞。モットーは「日々是精進ひびこれしょうじん」です。皆さまのお役に立てますよう努めてまいります。



左から辻・中野・岡本・齊藤

英語の授業は楽しく、面白く！

通訳・ホームステイ部会 山口 大二郎

今回は、月曜日のCHAT（英語でおしゃべり）に参加してくれるALT（Asistant Language Teacher）のローラ（Laura Hodgkin）先生が担当する中学一年生のクラスを参観させていただきました。



緊張感漂ただようクラスは、まず Warming up として JTE（日本人英語教師）と ALT による大きな声での挨拶から始まり、英単語を想像させるビンゴゲーム。次に“Who am I?”生徒がクイズを読み上げ、ヒントだけで解らない時は“Can you ~?”で質問します。教科書に頼らない楽しく面白い授業でした。

ローラ先生に ALT としての感想を聞きました。

Teaching in Narashino middle schools is always interesting. I've learned a lot by teaching. Some days working here is wonderful. Other days it is not. But each school has a different flavor. To be honest, most students aren't particularly interested in learning how to speak English. What they are interested in is learning enough English to pass the high school entrance exams and go on to a good school. There are a few students, though, who have a passion for English. Teaching both kinds of students is a challenge. Middle school is particularly difficult time in a student's life, so it is necessary to learn how the middle school student functions in addition to knowing how to speak English.



Working with the JTEs is an education as well. Each teacher has a unique style for teaching English ; working with these teachers has taught me about education in general, the Japanese educational system, and how people work.

日本語ボランティア

日本語学習委員会 田中 芳恵

習志野市内及び近隣に居住する外国人、あるいは長く日本を離れていて、日本語を十分理解できない方たちが、楽しく日常生活が過ごせるようにと、1987年通訳ボランティアによる支援がはじまりました。1994年に「第1回日本語ボランティア養成講座」が開講し、1996年に「日本語ボランティア制度」が確立されて、「日本語教室」として学習会がスタートしました。

2000年以降は、日本人と外国人の共生社会を実現できるように、外国人が地域社会に参加できる程度の日本語の習得を目指しています。日本人と外国人が、また外国人同士が「日本語」で語り合い、お互いの文化を理解し、尊重し、心豊かな生活をエンジョイしていることを想像することは、すてきなことです。習志野市国際交流協会の日本語学習ボランティアと学習者たちは、習志野市及びその近隣に居住・勤務・通学している仲間たちです。

日本語学習委員会の活動は地道な活動です。月曜と水曜の午前10時から11時半までは主婦や学生、夜間の勤めから帰ってきた人、仕事が休みの外国人などさまざまな人が学習しています。木曜の午後5時から9時までは仕事帰りの外国人がほとんどです。仕事を終えてから駆けつける日本語学習ボランティアもいます。火曜の午前10時半から12時までは漢字教室です。土曜には子供たちが集まってきます。火曜の漢字教室以外は、マンツーマンで、レベルに合わせて90分の学習をしています。昨年末に講師養成講座を終えた新ボランティアの多くが木曜の夜に活動を始めてくれましたので、木曜の夜に日本語学習を受講したいと待機していた外国人が全員受講できるようになりました。



漢字教室の学習風景

教科書は学習者とボランティアが話し合って決めます。はじめは「みんなの日本語」を学習者とボランティアが共に自費で購入して使っていますが、少しレベルが上がってくると、新聞や雑誌も教材となります。漢字教室では講師が手作りのテキストを使用しています。

先日のプリントに「両面テープを使う」という一文がありました。もちろん「りょうめんてーぷをつかう」と読むのですが、「両」と「面」の音読み・訓読みも学習していました。「両」・・・「もろ」、
「面」・・・「おもて」「つら」。

最初は「ひらがな」もきちんと書けなかった外国人が日本語検定にチャレンジするまでに上達した様子を見ると、心からうれしくなります。



子供教室の学習風景

子供たちの学習風景は実に多彩です。小学生から中学生まで、現在12名が学んでいます。学校の教科書を使っての学習はもちろんのこと、小倉百人一首を読む子供や理科の実験に取り組んでいる子供たちもいて、とてもにぎやかです。

日本語学習ボランティアの活動は日本語学習の支援だけではありません。「新年茶話会」や「七夕まつり」など季節の行事を開催したり、日本語学習の成果を発表する「スピーチ茶話会」をします。また、日本文化の体験学習として、書道や房総花寿司、和菓子作りなどを楽しみます。「習志野きらっとサンバ」ではNIAチームの主力メンバーとして活躍します。一方、日常生活の支援として、学習者と一緒に銀行や郵便局へ行ったり、携帯電話の契約に付き添ったりすることもあります。母親学級に同行したボランティアもいます。日本の文化や生活習慣を伝え、日本社会で自立できるようにと身近な相談ごとにも乗ってきました。

人と人との出会いは素晴らしいです。私たちの小さな働きがいつか世界のどこかで大きな花を咲かせてくれることを夢みて、今日もボランティア活動をしています。

横浜バスハイク

交流文化部会 吉田 武

2年ぶりのバスハイク。予想以上に参加申し込み者は多く、外国人10人を含む総勢23人の一行で小型バスはほぼ満席となりました。

午前8時全員定時にサンロード前を出発。横浜は、開港150周年という歴史的にも大きな区切りの年で、街の随所に祝賀風景が見られました。

まずは赤レンガ倉庫へ直行。明治44年(1911年)に竣工し、激動の時代を乗り切った名建築が複合施設として復活。文化施設や商業施設を見学して、皆記念写真を撮ったり、ショッピングなど横浜の旅がスタート。次は今回の目玉の一つである、横浜港マ



リンクルージングです。

100名位は乗れそうな大きな船です。いよいよ出港、ゆっくり船が^{さんぼし}棧橋を離れて行きます。海から見る横浜港はとても近代的な感じがしました。



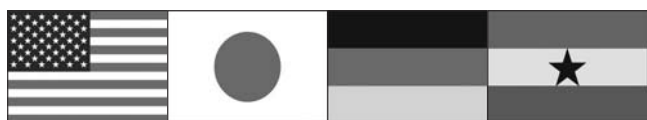
そろそろお腹も空き始め、中華街で昼食とお買い物。ここは完全な中国。店が多すぎ(?)て、どの店で食事をしようか皆さんきっと悩んだことと思います。

満腹の後は文化の薫^{かお}り高い三溪園をじっくり見て、アクアライン経由で帰路に。途中、海ほたるで休憩。最後にクイズを！ 皆さん「海ほたる」って実在すると思いますか？ お疲れさまでした。

タスカルーサ市は姉妹都市提携25周年の記念事業 Student Tile Art Project を発表

姉妹都市部会 今井 洋子

タスカルーサ市(米国・アラバマ州)は、2年後の2011年(平成23年)、習志野市と姉妹都市提携25周年を、ドイツのショーンドルフ市と同15周年を迎えます。さらに、その年に、スンヤニ市(西アフリカのガーナ)と友好都市提携を結ぶ運びとなりました。タスカルーサ市は、3市を招いて4市合同の記念式典を挙げることを計画しています。



10月中旬、タスカルーサ姉妹都市委員会の専務理事リサ・キーズさんから素晴らしいプロジェクトの知らせが届きました。若者達に6インチ(約15cm)平方の絵を描いてもらい、それをタイルに焼付けてタスカルーサ市の公共建物の壁にモニュメントとし

てはめ込み、永久保存をします。そのため、4市の青少年たちからそれぞれ49枚ずつの絵を募集します。原画のデザインのテーマは、“treasures”(宝物)で、世界平和を希求・促進するという姉妹都市の使命を反映するものでなければなりません。テーマと使命を結びつけて考えると少しむずかしいですね。例えばこんな方向から考えることもできるかと思えます。皆さんの宝物って何ですか？勿論、物質としての宝物はあるでしょう。思い出としての宝物、あるいは夢が宝物かも知れません。人間が夢を持つ限り世界平和は保たれるのではないのでしょうか？それらはどんな絵になるのでしょうか？習志野市の青少年の宝物を世界に向けて発信してください。

応募の詳細は別途お知らせします。当協会への提出期限は来年の2月末です。ぜひ、応募してください。習志野市の49分の1枚となった自分の絵と、いつかタスカルーサ市で再会できるとしたら素晴らしいことですね。

読者の広場

◇伊藤慶明さん

私は四半期毎に、家族のいるフランスと、両親のいる日本とを往復しています。NIAの諸活動にお手伝いできず、申し訳ないと思いつつも、日本にいるときは「スクウェア」を読んで、NIAの催す活動には積極的に参加してきました。これまで、総会、英語講座、文化講演会、餅つき大会、クリスマス会などに参加しました。これからも、フランスの人たちにNIAの活動の話をし、「日本」を知ってもらおうつもりです。

◇匿名(S・K)さん

「スクウェア」の限られた紙面を小学生から外国人を含む大人まで、幅広い読者を対象にした編集作業は、さぞご苦勞の多いことかと推察いたします。

編集を簡単にする意味で、小中学生を対象にして、俳句や川柳、詩などに紙面を割かれてはいかがでしょうか。以前、タスカルーサ市が春祭りとして行っていた俳句への投句者たちは、親子共々次号の配布を待ちわびていました。

構成面につきまして、表紙を含む4ページを緑と黒の2色刷りに復活したことは、会報の品位を高めたように思います。

豆知識

「スクウェア」を読んでいると、「多文化共生社会」とか「異文化共生社会」、「地域社会における共生」など「共生」という言葉をよく見かけます。「一緒に生活する」という意味では、「共存」という言葉もありますが、その違いについて皆さんお解かりでしょうか。

「共生」は生物学用語から来た言葉です。二種類の生物が互いに利益を得ながら、一緒に生活することを言います。具体的には、木の若芽に付くアブラムシとアリの関係やクマノミとイソギンチャクの関係などが共生に相当します。そ

のことから、人種や民族、宗教、言語、生活習慣などの異なる人たちが、お互いに助け合って生活していくことを意味しています。

一方、「共存」とは同じ地域でいろんな人たちがともに生きていくことです。中東にあるイスラエルとヨルダンの国境の町「エルサレム」は、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教という世界の三大宗教がそれぞれ「聖都」としていていますので、ここでは昔から宗教や民族、文化の異なる人たちが時にイザコザを起こしながらも長く生活してきました。これは共存の一例です。もちろん世界には、もめごともなく一緒に生活している共存例も沢山あります。

編集後記

今回から会報のタイトルを、理事会の承認を得て「NIA スクウェア」から「スクウェア」へ変えました。変えた理由はいくつかあります。まず、タイトルの「エヌアイエイスクウェア」という10音節が長過ぎるため、10音節をきちんと話す人はほとんど無く、日常的に「スクウェア」という略称が使われてきました。参考までに近隣13市の国際交流協会の会報タイトルを調べましたところ、いずれも6音節以下で、大半が4～5音節に集約されていました。

もう一つの理由は、音節が長過ぎるため、表記の誤りが非常に多いことです。「NIA スクウェア」と記すべきところを「N.I.A. スクウェア」「N.I.A スクエア」「スクウェア」「スクウエア」などの活字が最近も誤使用されています。この誤りを少しでも減らしたく、タイトルの変更を理事会に提案し、承認されました。従って、今後日本語では「スクウェア」を、英語では「SQUARE」を使用いたします。(編集部 白井)

スクウェア 第88号

発行 2009年12月1日

習志野市国際交流協会

発行責任者 山田大三

編集責任者 白井聖一

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード津田沼4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.nia08.com/>

〈Eメール〉 nia@seaple.ne.jp